

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」 2階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	令和 5年 4月 26日	評価結果市町村受理日	令和 5年 6月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成15年に開設し、名寄市内で一番古いグループホームです。近隣には市役所や小学校、馴染みの店やコンビニなどの利便性の良い場所にあります。敷地内には中庭があり、春には桜、つつじが咲きます。畑には幾つもの野菜の成長を入居者と一緒に成長を楽しみにし、夏野菜が食卓に上がります。又雛祭りや七夕、クリスマス会など季節や日本文化に触れられるような行事を企画し、入居者全員が楽しんで頂けるよう努力している。母体の病院から看護師が週に一回訪問し、入居者の体調面でのアドバイスを頂き、連携を図りながら常、日頃入居者の体調の変化に気付けるよう努めている。当事業所では一人ひとりの生活リズムを大切に、アットホームは雰囲気です自宅と同じように穏やかに過ごせるよう支援し、入居者の思いや意向と汲み取れるよう努力しています。認知症の方がいつまでも、楽しく生活が続くよう職員一同支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年5月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し利用者の立場に立ち、実践に繋がられるよう努力しているが、理念を意識していない時もあり、不十分な所もある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域の方との交流が殆ど出来ていない状態が続いているが、散歩で町内を歩いている際に、挨拶程度は行なえている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や面会、行事等が行えていなかった為、地域の方との交流は行なえておらず、認知症の人の理解や支援を人々に向けて活かす事は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響や施設内でもコロナが発生してしまい、運営推進会議は行なえていない。活動報告は市、町内会、家族に二か月に一度送付し施設での活動等を報告している。運営推進会議が始まればサービス向上の為の意見を聞いて行ききたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地域包括支援センター、高齢福祉係、介護保険係と情報交換や相談、報告は管理者が行い、良好な関係が築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止の観点でセンサーマットを使用している方はいる。定期的に身体拘束委員会を開催しユニット内で拘束に繋がらない事例がないか検証し、身体拘束、言葉での拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開き、カンファレンスの際には職員に委員会での意見、注意喚起をし、議事録を通して周知している。事業所内で虐待が見過ごされない様、防止に努めている。		

グループホーム「里の家」 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がいたが、現在は利用している入居者はいない。成年後見人制度について学ぶ機会が少なく、今後外部での研修があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に契約・解約の説明を十分に行っている。入居の際には入居者と家族の不安や心配な事、疑問点を尋ね、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の中止等があり家族からの意見や要望を聞く機会が少なくなっている。介護計画の説明を電話でする際には、その都度、意見や意向を伺うよう心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議、通常の業務の中で職員からの意見や提案を管理者は聞き運営に反映させている。時には母体の病院からの意見や提案を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が資格取得のキャリアアップ制度があり昇給や賞与もある。資格取得や研修に参加する職員には勤務表の配慮をしている。又長年勤めた職員には、法人から表彰もあり意欲的に働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響や施設内でコロナが発生した為、施設内部での勉強会は行なえていない。法人外での研修には何度か参加し、zoomで参加する職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少なくなっている。今後、市内での研修等を通して同業者との交流やサービスの向上をさせていける事を期待したい。		

グループホーム「里の家」 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みで得た情報と入居時に得た情報をもとに、本人やご家族が困っている事、不安な事、要望等を聞き、入居者が安心して生活が行えるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いや困っている事、不安、要望等を聞き、入居者に何か変化があったり、受診の結果、事故の状況等をこまめに連絡をする事で言い関係になれる様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や他事業所、病院からの情報提供やフェイスシート等を参考にし、必要な支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が望む活動を把握し、出来るだけ希望に沿えるよう努めている。又活動や行事等職員と一緒に楽しみ、暮らしを共にする者同士の関係を築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は玄関先か事務所内で行うようにし、家族、入居者の希望で外出される方もいる。又家族には定期的に介護計画の説明をし、最近の様子を伝え共に本人を支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院やかかりつけ医に通えるよう支援している。中には教会に行き友人と会うのを楽しみにしている方もいる。馴染んできた人や場所との関係が途切れない様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は把握出来ている。孤立がちな入居者には孤立しない様、会話の時間をつくったり、活動参加への声掛けを行っている。知人がいる方には、階を行き来き出来るよう支援し、馴染みの関係が保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した時点で関係は希薄になっている。病院の相談員や家族に会った際に管理者が状況を教えて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や意向の把握に努めている。又意思の疎通が困難な場合でも表情や行動から読み取るよう努力し、本人本意にサービスを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報や他事業所、病院からの情報提供をして頂き、生活歴や暮らし方、生活環境、既往歴等をこれまでのサービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や活動の様子、心身の状況の把握に努め、申し送りやカンファレンス等で職員同士共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと定期的にかンファレンスを行い、本人の希望や意向、生活状況、心身の状況を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動や心身の状況、本人からの訴えを個別に記録し第三者が見ても分かるような記録分かるような記録が書けるよう心掛けている。朝・夕での申し送りで情報を共有し、ケアの方法や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応や入退居時の送迎、日中や夜間に関わらず、状況に合わせた柔軟な対に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力のもと教会に出掛けられる方はおり、本人も楽しみにしている。今後、地域資源を活用出来る方がいれば、積極的に活用していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に継続して受診出来るよう支援している。状況、容態によっては専門医や救急外来に受診が必要な場面もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム「里の家」 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、母体の病院から看護師が訪問している。訪問までの様子を報告し、入居者の体調についてのアドバイスを受けたり、相談をする事もある。時には専門医への受診を勧められる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供や口頭で入居者の状態を伝えている。又ICTを活用し、病院側の情報を把握している。退院後、出来るだけ元の生活に戻れる様、病院との情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る事。出来ない事を契約時に説明している。重症化した場合や急変時にはご家族同席の中で医師の話しを聞いてもらい、判断している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の定期的な訓練は出来ていない。急変時のマニュアルを作成しており、マニュアルに沿って行動出来るよう目の届く場所に設置しているが実践力に不安があるのが現状である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練と垂直避難訓練を実施し、避難の方法を周知している。地域の方と協力して避難訓練はコロナの影響もあり出来ていないが、協力体制は出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等の声掛け、出来るだけ他の入居者に視線が集まらないような工夫や声の掛け方に注意している。人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉にならない様、意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事、午睡や活動等、今やりたい事や思っている事を第一に考え、生活リズムに合わせて自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、入居者の生活リズムに合わせどの様に過ごしたいか希望を聞いたり、一緒に考える等、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		

グループホーム「里の家」 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	定期的に理美容院や訪問理容でヘアカットしてもらったり、近所の美容室に出掛ける支援をしている。季節に合った服装と一緒に考え、その人らしさを大切に身だしなみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は日常的には行なえていないが、時にはお米研ぎや副食の盛り付けを行ってもらい、食後にはお膳拭き、食器拭き等職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者、全員の食事量、水分摂取量を把握している。食事量が少ない入居者には食事の形態を変えたり、好きな物を提供し、少しでも多く食べてもらえる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、職員の介助が必要な方もいる。又定期的に歯科に通院しクリーニングしてもらい清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄用品は入居者に合わせた物を使用し、大半の方はハビリパンツを使用。一人ひとりの排泄パターンを把握し必要に応じて声掛けやトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している方が多く、状況によっては浣腸を施行している。食事や水分量の把握しており、朝には冷水を飲んでもらったり、乳製品やオリゴ糖を摂取してもらい、なるべく自然な排便が促せる様、取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをし、週に2~3回入浴が行えるよう支援している。入浴剤を使用し、入浴時間が少しでも楽しく、気持ちの良くなるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや居室に戻り休まれている。それぞれ自由に過ごして頂いている。眠剤を服用されている方もいるが、安心して気持ちよく眠れる様、定期的に寝具の交換や換気、室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や処方量の変更等は職員一同理解している。薬の副作用や用法等難しい事に関しては、薬の説明書やインターネットで調べている。時には医師に確認する事もある。		

グループホーム「里の家」 2階ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯物たため、家事仕事などを行い、入居者同士の活動や散歩、カラオケ等にも参加して頂き、楽しみや気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に添った外出は出来ていないが、散歩や買い物の時間をつくったり、花見や隣町までドライブに行けるよう支援している。家族や地域の人と協力して外出する機会は行なえていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては管理者が管理している。お金を使う機会は少ないが、今後は外出の機会を増やしお金が使えるよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とはいつでも電話連絡出来る環境になっている。日常的に手紙のやり取りをしている方はいないが、家族や親戚から手紙や葉書がくれば、直接本人に手渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除やユニット内の消毒を行い清潔感が保てるよう心掛けている。むやみにユニット内の物を動かさない様にし、季節に応じたディスプレイを行い入居者に季節感を感じてもらえるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に過ごして頂いているが、大体の方は過ごす場所は決まりがちである。午前、午後と時間を問わず好きな時に自室戻ってもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、少しでも自宅での環境に近づけ、居心地良く生活が出来るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所を間違えない様に表札やトイレ、洗面所等にも表札をつくっている。施設内はバリアフリーで手すりも多く、安全に生活が送れるよう工夫している。		